

観光元年 ATTENTION

産業観光へ 期待と課題 2009

決め手は域内コラボレーション

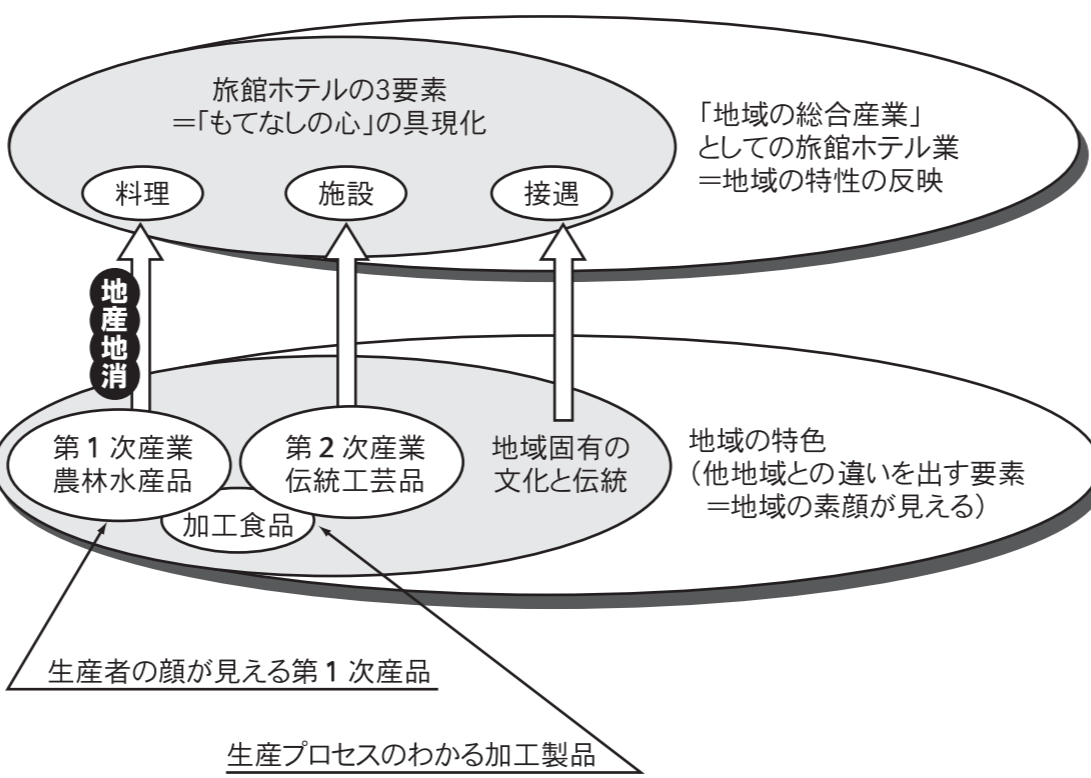
旅館から地域へ提案 観光牽引したノウハウ活用を

観光立国の実現に向けて昨年10月1日には待望の「観光庁」が発足し、さまざまな施策の実現へ弾みがついた。同時に、観光業界もさらなる自助努力が必要なのは言うまでもない。とりわけ観光立国の旗印の1つである「住んでよし、訪れてよしの国づくり」の第一歩は、それぞれの地域が特色を生かした活性化策を展開することだ。観光の中核産業でもある旅館は、これまでに培った観光ノウハウを基に、地域一体の産業観光を提案する時が訪れた。

注目の産業観光は「モノイメジ」から、先進工業を誘発する形にとらえられがちだが、肝心の受け地がいかにあるべきかを模索することだ。その答えは用意されている。住んでよし、訪れてよしの国づくりである。それぞれの地域が、その受け地をどう活かすか、それが鍵となる。観光は、地域経済が活性化されるにつれて、都市部を除けば大半は、緑豊かな自然性で先法であり、その

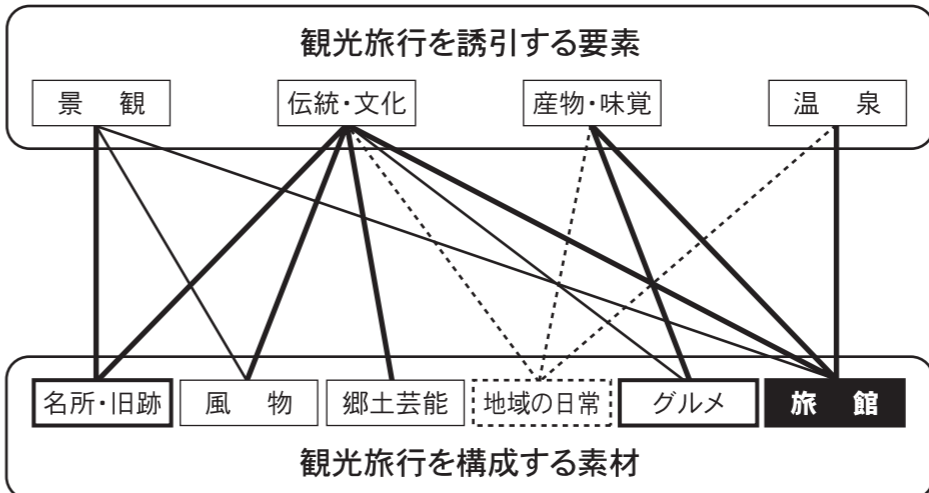
では、おのずと観光と守り続けてきた伝統や文化が息づいている。生活者が不満を抱くよう活者に不都合があるとすれば、まさに「地産地消」だ。施設には地域の伝統技術を生かした家具調度品をはじめ、温泉や地域色が誘客要素の1つになっている。さらには、接客係は、方言や地域の生活習慣など、地域文化に根ざした生活環境の中で日常を過ごしている。これらが組み合わされて旅館の「もてなしの心」が旅行者に伝えられている。そこに、地域の総合産業の真骨頂がある。産業観光を活性化させる産業観光の具体化には、越えなければならないハ

切り札とも位置づけられるのが、産業観光なのだ。一方、それぞれの地域にある旅館は、地域の総合産業ともいえる。旅館の3要素である「施設・料理・サービス」は、どれもが地域と密着している。提供する料理は地域の第1次産業が生み出す食材を調理したものであり、まさに「地産地消」だ。施設には地域の伝統技術を生かした家具調度品をはじめ、温泉や地域色が誘客要素の1つになっている。さらには、接客係は、方言や地域の生活習慣など、地域文化に根ざした生活環境の中で日常を過ごしている。これらが組み合わされて旅館の「もてなしの心」が旅行者に伝えられている。そこに、地域の総合産業の真骨頂がある。産業観光を活性化させる産業観光の具体化には、越えなければならないハ



地域一体が不可欠 地産地消もテーマの1つ

消費者の間で食の安全・安心への関心が高まり、それに伴って産地志向や産地志向が一段と強まっている。生産者の顔が見える食品として、スーパーマーケットの売り場、レストラン、健康で持続可能な生活、といったトレンドが台頭し、農村から始まった地産地消も都市部に広まり、現在のような解りやすさが求められている。また、牛肉の消費が激しいという志向は、観光旅行へも大きな影響を及ぼしている。第1次産業の生産現場の見学や体験は、児童生徒の光を浴びてきたのが、地産地消だ。言自体はITでも大きな要素の1つだが、当初は農村部の食生活改善へ向けた取り組みであった。そこに、産業観光としての水産物がある。だが、生業の生産現場で観光客をいかに受け入れるか、あるいは地域の食材を観光客に提供する商品体系を成立させるための一定を確保する計画が必要となる。そうした課題を乗り越えるには、生産者と観光客とのコミュニケーションを越えなくては、地域も観光も活性化される。



観光宿泊ブーム

第1次旅行ブーム 戦後の復興が一段落した1960年代は、人々の生活の中にレジャーを取り込む余裕が生まれ、花見や海水浴など、かつて生活の一部に組み込まれていた日帰りの年中行事が復活した程度だった。ヘルスセンターと呼ばれる温泉施設が都市の人口密集地に登場し、人気を集めたが、これも日帰りのレジャー施設であった。宿泊を伴った観光旅行時代は、70年の大阪万博で完全に定着していった。それが「温泉ブーム」の始まりだった。70年代の旅行ブームは、観光と温泉(旅館)が中心であり、温泉は名所旧跡の観光、夜は旅館で宴会を楽しむ型であった。男性中心だった温泉地は、女性も温泉ブームを相まって、旅館宿泊が観光旅行の中核要素となった。それは、温泉ブームをきっかけとした「旅館ブーム」でもあった。SIT旅行 同時にグルメブームと相まって、旅館宿泊が観光旅行の中核要素となった。それは、温泉ブームをきっかけとした「旅館ブーム」でもあった。SIT旅行 同時にグルメブームと相まって、旅館宿泊が観光旅行の中核要素となった。それは、温泉ブームをきっかけとした「旅館ブーム」でもあった。SIT旅行

消費者のニーズ

食の安全・安心
生産者の顔が見える第1次産品
生産のプロセスが分かる食品加工

旅行の誘発因子
SIT=知的好奇心を満たす旅
癒し=温泉や料理による満足感

ニーズを満たす旅行

地域産業の見学・体験
食の安全・安心を体感する
知的好奇心の満足

地産地消
その土地ならではの味覚体験
未知の味覚発見

消費者の間で食の安全・安心への関心が高まり、それに伴って産地志向や産地志向が一段と強まっている。生産者の顔が見える食品として、スーパーマーケットの売り場、レストラン、健康で持続可能な生活、といったトレンドが台頭し、農村から始まった地産地消も都市部に広まり、現在のような解りやすさが求められている。また、牛肉の消費が激しいという志向は、観光旅行へも大きな影響を及ぼしている。第1次産業の生産現場の見学や体験は、児童生徒の光を浴びてきたのが、地産地消だ。言自体はITでも大きな要素の1つだが、当初は農村部の食生活改善へ向けた取り組みであった。そこに、産業観光としての水産物がある。だが、生業の生産現場で観光客をいかに受け入れるか、あるいは地域の食材を観光客に提供する商品体系を成立させるための一定を確保する計画が必要となる。そうした課題を乗り越えるには、生産者と観光客とのコミュニケーションを越えなくては、地域も観光も活性化される。

加賀屋で味わう
極上のヒーリング Qi

資生堂 Qi(エスティック)を導入した「サロン&スパ」心やすらぐ「癒」の空間で、本格的なエステティックをお楽しみくださいませ。

サロンの気

能登半島国定公園・和倉温泉
国際観光ホテル整備法 登録旅館(登録第177号)

加賀屋

石川黒七尾市和倉温泉 ●〒926-0192 ●☎大代表 (0767) 62-1111
●FAX (0767) 62-1121 ●インターネット http://www.kagaya.co.jp/
加賀屋予約センター ☎(0767)62-4111

●東京 ☎(03) 3434-5500 ●名古屋 ☎(052) 571-4421
●大阪 ☎(06) 6351-1500 ●新潟 ☎(0258) 29-2252

加賀屋 検索 http://www.kagaya.co.jp/

冬の特選ご宿泊プラン 「真っ赤な匂を召し上がれ」

◆詳しくは、加賀屋ホームページ、または、加賀屋予約センターまでお問い合わせください。

和倉の浦より
謹んで新年のお慶びを
申し上げます。

日本海産のずいかに甘えび、美味しい旬の赤がそろいました。加賀屋ならではの会席料理でお楽しみください。